

第4回 HIS (Human-oriented Information System) 研究会 開催報告

研究会主査 川野喜一

■開催日時 2017年5月22日(月) 14:00~16:00

■開催場所 専修大学 神田校舎 7号館 764教室

■出席者 6名

■開催概要

“「人間中心の情報システム」であるための要件”について参加者で議論し、研究会として学会の理念である“人間中心の情報システム”の仮説要件を創る端緒にすべく、5月22日に伊藤重光様のご講演（「人間中心の情報システム」の要件）をたたき台に議論をスタートした。今回は参加者が持ち寄ったレジメに基づいて議論を行った。

次回の研究会（6月26日(月) 1400-1630 専修大神田校舎(予定)）で、株式会社 SYNCHRO 代表取締役社長 室木勝行様に同社が提供するシステム、サービスの“人間中心”の考え方についてご講演いただきます。沢山の方のご参加をお待ちいたします。

■討議概要

●参加者のレジメの概要（敬称略）

- ・伊藤重隆：方法論・プロセス（人間中心設計 HCD:Human Centered Design、UX）の紹介と、仮定義「人間の情報活動を通じて社会の厚生水準を向上させる仕組み」
- ・芳賀正憲：「“人間中心”の観点に立つ」「情報行動の主体である人間の位置に立脚する」ことの意味・定義と、学会が提唱する“情報システムプロデューサ”の役割の重要性。
- ・川野喜一：“人間中心”の視点（view point）と要件定義（view）についての考察。普遍的な要件と行動主体の“関心事と視点”に依存する要件。曖昧な要件に対する“合意形成”やフレーム・ワークとプロセスの必要性。

●参加者で下記のディスカッションを行った

- ・“情報システム”のスコープ：「情報システム＝社会」のスコープ（議論が発散する恐れ）と「IT/ICTを利用した情報システム」のスコープ（要件を具体化する）。後者で進める。
- ・普遍的な要件「自立、fair や openness（隠し立てしないこと、厚生（健康で豊かな生活）など」の考慮の必要性。
- ・現実社会で“人間中心でないもの”“利用者の意図を反映していないもの”が溢れている危機感。“人間中心のサービス”や教育の必要性。
⇒ 次回 ビジネスの現場での人間中心の事例 を参考に議論をすすめる。

以上